2020年度　中期研修報告書

所属　法学部　職名　教授

氏名　北山 修悟

＜研 修 概 要＞

スペインが生んだ偉大な思想家であるオルテガ・イ・ガセット（1883-1955）が、生前に構想を練りながらも果たせなかった「社会」と「国家」と「法」に関する哲学的かつ社会学的な１つの思想体系の構築作業を、現代社会にも通用するものとして継承し完成させるという大きなテーマに向けての、準備的な考察を進めることが、今回の中期研修の目標であった。

実際には、①オルテガの著作中の日本語訳があるものを（既読のものの再読も含めて）全て精読する、②『法思想におけるオルテガ』（Jesus Lopez Medel; Ortega y Gasset en el Pensamiento Juridico）の通読、③オルテガ全集（スペイン語）全10巻の通読、及び、②と③の前提となるスペイン語の学習という目標のうちの、①は終了できたが、②は中途までで終わり、③には手が及ばなかった。②と③の前提となるスペイン語の修得に（予想どおり）多大な時間と労力が費やされたからである。

そもそもは、今回のオルテガ法社会思想大系の再構築というテーマは、私の残された人生におけるすべての期間を費やすつもりの壮大なテーマであったので、完成できなかったことは意外でも何でもない。しかし、全てはスペイン語の修得が前提となるのであり、今回の研修期間中にそのために集中的に時間をかけることができたのは、本当に幸いであった。60歳になってからの外国語の修得は、記憶力の低下と視力の悪化との闘いであった。特にスペイン語では、単語は英語やフランス語に似ているものも少なくないのでさして難しくないが、しかし、時制と格による動詞の活用変化が非常に多彩でありかつ重要であって（動詞の活用形態から主語を読み取ることになっており、主語は文中で省略されることが、スペイン語の１つの特徴である）、これを暗記することが必須であり、時間がかかった。約10年前にいちど試みて挫折したスペイン語学習であるが、その挫折の経験も下敷きにして、今回の中期研修では効率的かつ集中的に学習を進め、その結果、スペイン語文法はほぼマスターし、単語も日常会話レベルはマスターできた。

また、オルテガの著作の再読に際しての副産物として、気になったローマ史とローマ法について目を通し、さらに欧米法思想史の全般を復習できた。

全体として、6か月の研修期間をきわめて有効に活用できたと考えている。ちなみに、研修期間中は（年末年始も含めて）全日研究室へ出勤し、休日は6か月の間にゼロであった。

以　上